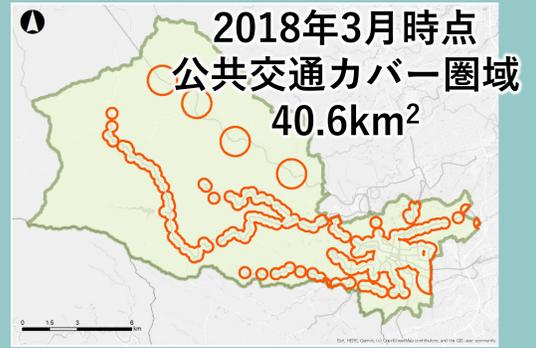


# 飯能市におけるノーマイカーデーの継続実施効果と新たな交通手段の導入

## 飯能市の公共交通の現状

- 飯能市では、2018年3月に「飯能市地域公共交通網形成計画」を策定した。策定時点の公共交通カバー圏域は40.6km<sup>2</sup>、市域の約20%である。
- 飯能市の公共交通は、少子高齢化、マイカー中心のライフスタイルの定着、新型コロナウイルス感染症の影響等により利用者が減少している。
- 路線バスをはじめ既存の公共交通を維持・確保しつつ、新たな移動手段の導入を進めている。

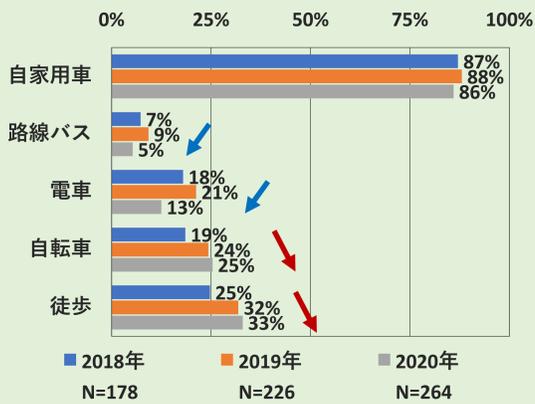


## 「2020はんのう・ひだかノーマイカーデー」の取り組み

- 実施期間：2020年12月1日～12月31日まで1カ月間
- 参加者数：907人（飯能市：628人 日高市：279人）
- 参加事業所：29事業所（飯能市：13事業所 日高市：16事業所）
- 事後調査：アンケートにより、ノーマイカーデー実施結果等を分析

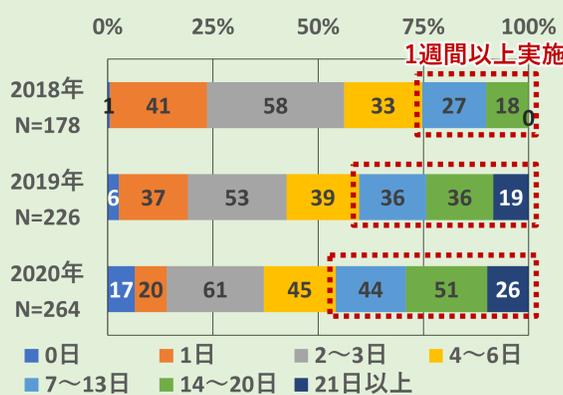


### 普段利用する移動手段



自家用車利用は変わらず、路線バスや電車利用は減少、自転車や徒歩による移動が増加傾向

### ノーマイカー実施日数



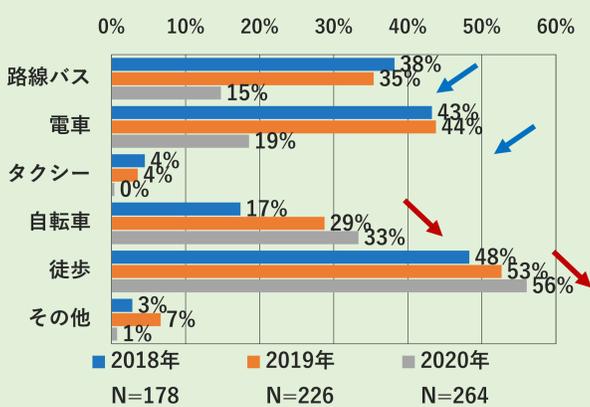
年々、参加者が期間中にノーマイカーを実施する日数が伸びている

### ノーマイカーデーの取組周知



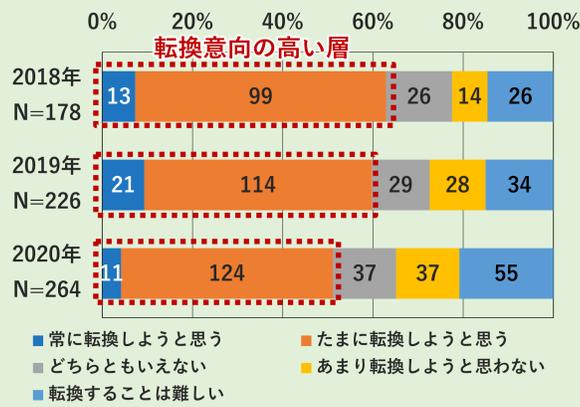
国際興業（株）の協力のもと取組周知のため路線バスの表示板を活用

### 自動車から変更して利用した移動手段



コロナ禍につき路線バス・電車への利用転換が大幅に減少し、自転車や徒歩への転換が増加

### 公共交通等への日常的な転換意向



日常的に転換しようという意向を持つ人が減少 十分なコロナ対策のもと利用促進が必要

### 路線バスへの転換による収益（概算）



期間中の路線バス利用が大幅に減少し、収益も昨年度と比較して低下

- コロナ禍においてノーマイカーデーでの利用転換が減少し、期間中の収益も例年と比較すると少ない。
- 一方、参加者増やノーマイカー実施数の伸びもある。取り組みの更なる発展のため、事業内容のデジタル化や高齢者等の参加を促進する仕組みづくり、協賛や特典等のインセンティブの付与等の変革が必要となる。
- コロナ禍での公共交通事業者の苦しい現状や感染予防の取組を市民に伝えていくことが大切である。

## 新たな交通手段の導入

### 奥武蔵らくらく交通



H30.12にNPOによる公共交通空白地有償運送の運行を開始 飯能市西部の移動手段を確保

### 飯能リハビリ館移動サービス



R2.11に飯能リハビリ館の送迎車の空席を活用した移動サービスの実証運行を開始

### 飯能市乗合ワゴン



R3.3に乗合ワゴンの実証運行を週3日の運行で開始 飯能市東部の移動手段を確保

